届け 世界の果てまでも

令和４年１０月４日　Ｎｏ．３７　文責　校長　飯久保一男

集団の心理 … プラスに影響する関係とマイナスに影響する関係

ヒツジは臆病な動物ですので群れをつくろうとする性質があります。

「１匹のヒツジを捕まえるよりも，１００匹のヒツジを捕まえるほうがたやすい」

といわれます。ヒツジの群れの特徴をうまく表した言葉です。単独でいるヒツジは警戒心が強く，逃げ回りますので，なかなか近寄ることもできません。しかし，群れのヒツジであれば，先頭にいるヒツジをうまく誘導すれば，その群れを丸ごと柵の中に入れ込むことができるのです。また，ヒツジの群れは

「１匹が川に飛び込めば，次々と川に飛び込んでいく」

ともいわれます。ヒツジは１匹では臆病で警戒心が強いのですが，群れになると臆病さや警戒心が弱まります。そして，行きたくない方向や間違った方向でも，前のヒツジに続いて，群れごと進んでいってしまうのです。

人間の集団にも，ヒツジの群れに似た心理が働きます。子どもたちの学習や活動の場面を，クラスの集団の心理で考えてみますと，次のような関係が働くと考えられます。

▽合唱に取り組んだときなかなか声の出ないクラスで，合唱をがんばりたいと思っても，自分だけ大きな声を出していくのは勇気が必要なことですし，変に目立つことになってしまいます。がんばっている子が嫌になってしまうこともあります。

〇合唱に取り組むとみんなで声を出すクラスでは，がんばりたい子はどんどんがんばれます。歌に自信のない子でも思い切って声が出せます。歌が苦手だという子が歌うことの楽しさを発見できるかもしれません。

▽授業中の発言がほとんどないクラスでは，自信がないときに発言をすることは難しいことですし，勇気のいることです。間違った発言が冷かされたり，笑われたりしたら，次には絶対に発言したくなくなります。

〇授業中に多くの子がどんどん発言するクラスは，発言しやすい雰囲気が生まれます。さらに，間違えた発言でも認め合えるようなクラスでは，自信のない発言でも出せるようになります。

▽様々な役への立候補が全然ないクラスでは，立候補することへの躊躇が生まれます。そんな中，勇気をもって立候補したのに，役になれなかったときには大きなショックを受けることになります。

〇役への立候補者があふれるようなクラスでは，自分も何かに挑戦しようと前向きな気持ちが生まれてきます。役になれない子が何人もいますので，役になれなくても，ショックはそれ程ではありません。

プラスに影響し合う関係の中では「自分を出す」ことができますが，マイナスに影響し合う関係の中では，「自分を引っ込めてしまう」ことがあります。立候補について相談する場面を考えてみますと，

〇プラスの関係　A「〇〇に立候補しようと思うんだ」　B「私は□□に立候補しようと思っているよ」
　　A「お互いにがんばろうね！」　B「うん，がんばろう！」

▽マイナスの関係　C「〇〇に立候補しようと思うんだ」　D「えー，やめとかない」
　　C「…，じゃあ，やめとく」　D「そうしなよ」

Ｃは立候補しようと思ったのですが，Ｄの言葉を聞いて立候補をやめてしまいました。

プラスの関係とマイナスの関係の影響力の強さは，マイナスの関係の影響力のほうが強いとされています。その理由の一つにあげられるのは「楽ができる」ということです。

裏面の関係を楽ができるという観点で考えてみますと…。

□合唱の取り組みは，声を出さないほうが楽です。
□授業中は，発言しないほうが楽です。
□役を決めるときも，立候補しないほうが楽です。

マイナスの関係は「やりたくない」という気持ちに傾きますので，楽ができるほうに向かうことが多くなります。逆に，プラスの関係は，お互いにがんばろうとしますので，キビシイ面も出てきます。例えば，体育で長い距離を走る学習をすると，マイナスの関係の集団は「やりたくない」という雰囲気が生まれることがあり，楽なほうに流れます。がんばって走っている子に「何まじめにやってんの」と嫌味を言うことすらあります。プラスの関係の集団では，励まし合ったり，競い合ったりして，一生懸命がんばりますので，ある意味キツイ学習になっていきます。でも，それをやり切ったときに本当の「楽しさ」が生まれるのです。

一人でも強い思いをもってがんばっていける人はいると思いますが，多くの人は，仲間や家族に支えられたり励まされたりしながら，様々なことに挑戦し，乗り越えていきます。仲間の「やりたい」という思いを応援し，お互いが励まし合い，がんばり合えるプラスの関係をつくっていってほしいと思います。家族は，がんばろうとする子どもの思いや姿を応援し，励まし，協力してほしいと思います。「楽をする」のではなく，みんなで「楽しく」がんばれる関係の中にいると，たくましく成長できます。

俺の中学校のときのバスケ部の同級生に，家がかなり貧乏なＭがいた。バッシュ（バスケットシューズ）はＩ～２万円するので，Ｍは先輩のお古のバッシュをもらって練習していた。

Ｍは練習にとてもまじめに，常に全力で取り組むすごいヤツだった。俺たちは，Ｍの練習態度に影響を受け，練習をサボろうなどとは考えず，必死にがんばっていた。でも，そんなＭと，Ｍの影響でがんばる俺たちのことが気に入らず，練習をサボる不まじめな態度のヤツらがいた。ヤツらはＭに「お前，バッシュも買えないのに，よく部活やっていられるなぁ」と嫌味を言っていた。そのことはＭはもちろん，俺たちの悩みでもあった。

そんなある日，俺たちは，Ｍにナイショで「みんなで金を出し合って，Ｍにバッシュをプレゼントしないか」「親からもらう金じゃなく，自分たちで金を稼ぐんだ」と話し合った。学校の近所に新聞店があるのでお願いしてみたら，そういう事情なら期間限定で雇ってくれると言ってくれた。そこで２カ月間，みんなで新聞配達をすることにした。また，プレゼントというと，Ｍが負い目を感じるだろうから，いつも行くスポーツ店のおじさんに頼み込み，「福引」という形にして，Ｍに当たりを引かせ，バッシュをゲットさせるという作戦を立てた。

それから２か月は，まさに青春だった。俺たちは一丸となって新聞配達をした。仲間のために尽くす自分たちにちょっと酔っていたかもしれないが…。そして，目標としていた２万円が貯まった。すぐスポーツ店に行き，みんなでバッシュを選び，店のおじさんに頼んで，偽物の福引セットをスタンバイしてもらった。

作戦決行の日。いつもＭと一緒に帰っているＫが「リストバンドを買いたいからスポーツ店に寄って行こう」とＭを誘った。Ｋが買い物をすると，店のおじさんが「今は感謝セールで福引をやっているから，Ｉ回引けるぞ，特賞はバッシュだ」と演技をしてくれた。ＫはＭに「俺クジ運悪いから，お前にクジやるよ，引いて」と福引の権利を譲った。Ｍはクジを引いた。クジを破り，中を覗き込んだ。“特賞”と書いてあるクジを見たときのＭの顔を俺は今も忘れられない。俺たちは倉庫のドアの隙間からその様子を見ていて，互いにガッツポーズを決めた。

次の日から体育館には，かっこいいバッシュを履いたＭの姿と，それをつまらなそうに見るサボりグループの姿があった。俺たちはそれを見てほくそ笑んでいた。